

PRESS RELEASE

「世界をオレンジ色に (Orange the World)」－女性と女兒に対する暴力撤廃への世界的取組が暴力の防止にスポットライトをあててスタート

ナイアガラの滝、欧州評議会ビル、インド門、ヨルダンのペトラ遺跡のライトアップなど、70カ国を超える国々で450以上の「オレンジ・イベント」を計画

2015年11月24日ニューヨーク－パレードからサッカーの試合、学校での討論会、何百もの象徴的な建造物のライトアップまで、国連の呼びかけで明日からはじまる「世界をオレンジ色に (Orange the World)」キャンペーンは、世界中で3人に1人が影響をうけている女性と女兒に対する暴力を撤廃するグローバルな行動を推進するものです。

女性や女兒に対する暴力のない明るい未来を象徴するオレンジ色で、大規模な社会的動員や世界的なイベントを一つにします。この呼びかけは、UN Women が主導している国連事務総長のキャンペーン「UNiTE to End Violence against Women (団結しよう。女性への暴力を終わらせるために)」の一環です。このキャンペーンは、「女性に対する暴力撤廃の国際デー」の11月25日から「人権デー」の12月10日までの期間にわたる市民主導のキャンペーン「ジェンダーに基づく暴力に反対する16日間の活動」の間、実施されます。今年の「“Orange the World” (世界をオレンジに色に)」キャンペーンは、女性と女兒に対する暴力撤廃目標を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択に特に関係した、女性や女兒に対する暴力の防止に焦点を当てています。

「16日間の活動」にあわせて、ブラジル、コンゴ民主共和国、スペインおよびトルコで注目されているイベントの開催中、プムズィレ・ムランボ＝ヌクカ UN Women 事務局長は、三大陸を訪問し、世界から地方にいたるまでの全レベルで蔓延する暴力、また、社会の全ての分野においても蔓延する暴力に対する緊急的な取組の必要性を訴える予定です。

11月25日、ニューヨークで開催される「女性に対する暴力撤廃国際デー」を記念する公式イベントにおいて、UN Women, ILO, UNDP, UNESCO, UNFPA および WHO を含む国連機関が合同で策定した「UN Framework to Underpin Action to Prevent Violence against Women」(女性に対する暴力を防止の行動を支持するための国連の枠組み)も発表される予定です。

「女性や女兒に対する暴力は、ジェンダー不平等と差別の原因と結果の両面において最も深刻な－そして最も黙認されている－人権侵害です。このことは、不均衡な社会の最も明白な指揮の一つとなり続けており、私たちはそれを変えることを固く決意しています。」と、プムズィレ・ムランボ＝ヌクカ国連事務次長・UN Women 事務局長は話します。「今、暴力の防止に焦点を当てる必要があります。このような複雑な課題に対する唯一の解決策はありませんが、暴力が起きる前に阻止することが出来るという証

拠が増えてきています。この包括的アプローチが、UN Women とパートナー機関で作り上げた新しい枠組みの根幹です。」

過去数十年間でいくつかの前進はみられます。今日、125カ国がセクシャル・ハラスメントに対する法を有し、119カ国がドメスティック・バイオレンスに対する法を制定しています。しかし、配偶者間での強姦に対する法を有しているのはわずか52カ国です。このような取組にも関わらず、女性と女兒に対する暴力は全ての国で続いています。女性は、家庭で殴られ、街で嫌がらせを受け、インターネット上でいじめを受けているのです。暴力を防止し、撤廃するということは、その根本的な原因であるジェンダー不平等と立ち向かうことです。2014年にWHOは、3人に1人の女性が人生のある時点において何らかの身体的または性的暴力の被害を受けているという衝撃的な事実を受け、それを世界的蔓延と呼び、公衆衛生上の危機であるとししました。—被害の多くは親密な関係のパートナーからであり、また特定の国々においてはその数は女性の70%にも膨みます。2012年に殺害された女性のうち、約半数がパートナー、もしくは家族によって殺されました。1億3300万人の女兒と女性が性器切除を経験しているとみられています。世界中で判明している人身売買の被害者のほぼ半数は成人女性です。

2015年9月、世界の指導者たちによって採択された大胆で新しい世界開発アジェンダ「持続可能な開発目標（SDGs）」の中で、女性と女兒に対する暴力は深刻であるが防止可能な問題である、という世界的な認識を持ち、重要な点に達したとしています。ジェンダー平等は、SDGsの目標5に示されており、女性と女兒に対するあらゆる形態の差別の撤廃を目指します。それは、女性に対する暴力は、開発アジェンダの完全な実施の障害として認識し、その目標達成のために何をすべきかを示す包括的な指標を示しています。また、性と生殖に関する権利に取組むサービスの提供にも重点を置いています。2015年9月27日の歴史的イベント「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに関するグローバル・リーダーズ会合」では、70カ国以上の国家元首が演台に立ち、女性と女兒に対する暴力の阻止を優先事項として挙げ、その問題の大きさと普遍性を示しただけでなく、暴力の蔓延がジェンダー平等と女性のエンパワーメントの達成の障害との国家元首の認識を示しました。

世界中で

「世界をオレンジ色に（Orange the world）」キャンペーンのもと、世界の70カ国を超える国々で、450以上のイベントが16日間を通じて計画されています。歴史的な建造物のライトアップから、宗教的指導者との意見交換会、映画鑑賞会、演劇やダンス、集会、行進、マラソン、ソーシャルメディアなどデジタルメディアを通じた行動など、市民社会が参加して様々な活動が行われます。ナイアガラの滝（カナダ/アメリカ）、欧州委員会ビル（ベルギー）、欧州評議会ビル（フランス）、ペトラ遺跡（ヨルダン）、司法裁判所（コンゴ民主共和国）など歴史的な建造物のオレンジ色へのライトアップなども含まれます。

アフリカでは、一連の強力なイニシアティブの中、南アフリカでは、ネルソンマンデラ橋のライトアップを行い、モザンビーク各地では、若者が集会を行います。中央・南アメリカ地域では、数あるイベントの中で、トリニダード・トバゴで、「Step it Up to End Violence against Women and Girls」（女性と女兒に対する暴力撤廃のために取組を強化しよう）というテーマでフィルム・フェスティバルが開催されます。エクアドルの首都キトは、オレンジ・マラソンを主催します。グアテマラでは、女性と女兒を暴力から解放しようというメッセージをこめた凧揚げ大会が開催されます。アジア太平洋地域では、ヒューマンズ・オブ・パキスタン（Humans of Pakistan）との協力で「16人の女性、16のストーリー」という地元の女性の写真と話を使った強力なソーシャル・メディア・キャンペーンを開始する予定です。パキスタンのラホール女子大学（The Lahore College Women University）と共同で開催されるUNiTE フェスティバルには、8大学から10,000人の女子学生が参加する予定です。インドは、インド門のライトアップに加え、デリーの利用者の多い地下鉄2路線で、女性に対する暴力撤廃のメッセージをパネルで紹介します。カンボジアは8.4kmのオレンジ・マラソンを主催します。東ティモールでは、アート・フェスティバルを企画しています。ヨーロッパでは、アルバニアの警察が、街をオレンジの服装でパトロールします。アラブ諸国地域では、ヨルダンのザータリ難民キャンプが女性のマラソンウォーキングなどの行事の会場となります。

さらに、パートナーによる動員として、影響力のある報道機関やジャーナリストに対しスタジオや服装にオレンジを使うことで、自身の活動への取組を表現するよう勧めています。また、視聴者にも女性や女兒に対する暴力撤廃の行動を起こすよう促しています。

報道機関の皆様へ

イベントに関する写真はこちらから

<https://flic.kr/s/aHskokiKb6>

ソーシャルメディアにご参加ください。

@SayNO_UNiTE をフォローし、皆さんのメッセージを #orangetheworld または、#16days で共有してください。

イベントを下記の Facebook page に掲載していただくことも可能です。

<https://www.facebook.com/events/1686128894932252/>